

令和6年度 第1回 九段中等教育学校 学校経営評議会 会議録

日 時 令和6年7月3日（水） 午後13時00分から14時36分
場 所 九段中等教育学校 九段校舎 会議室

内容

- 1 開会
- 2 校長挨拶
- 3 学校経営評議会委員、学校及び教育委員会事務局の自己紹介
- 4 令和6年度 学校経営方針の説明
- 5 その他
- 6 閉会

1 開会

○経営企画室長 それでは、時間ですので、よろしくお願いします。

本日、御多用のところ、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

開会に先立ちまして、配付資料の御確認をさせていただきたいと思います。

まず、本日の次第、それから、資料1として学校経営評議会設置要綱、資料2として学校経営評議会評議委員名簿、資料3として令和6年度学校経営方針、資料4としてグランドデザイン令和6年度版、資料5として九段探究プラン概念図令和6年度版、資料6として令和6年度各分掌経営方針、資料7として九段探究プラン評価・検証委員会実施要項、資料8として九段探究プラン評価・検証委員会委員名簿、以上でございます。

過不足等ございましたら、こちらにございますので、お申しつけくださいませ。

皆様、資料のほうはよろしいでしょうか。

それでは、ここからは会長に議事進行をお願いいたしたいと思います。よろしくお願いします。

○会長 ありがとうございました。

では、皆さん、今日はこの暑い中、大変御苦労さまですが、令和6年度第1回「学校経営評議会」を開催させていただきます。

まず初めに、時間的には2時半ぐらいに終了を予定させていただいております。

また、発言の折には挙手をして、指名させていただいてから発言をしていただくということで、いつもどおりよろしくお願いいたしたいと思います。

また、本日、欠席の方がいらっしゃいますけれども、このまま進めさせていただきます。

初めに、九段中等教育学校を代表いたしまして、校長先生より御挨拶をお願いいたします。

2 校長挨拶

○校長 皆さん、こんにちは。

本日は、御多用のところ、この評議会に御出席いただきましてありがとうございます。

今年度も新たな経営方針の下、生徒も今年度から1年生が男女枠を撤廃したというところで、1年生を見ると、ちょっと女子が多いなというような感じになっております。

学校経営方針についてもまた後ほど説明をさせていただきますけれども、本日、またいろいろと御意見をいただく中で学校経営に生かしていきたいと思っております。

本日はよろしくお願いいたします。

○会長 ありがとうございます。

それでは、この4月にいろいろ人事異動等がありましたので、今年度最初の会議ということになります。大変恐縮でございますが、皆様に自己紹介をしていただきたいと思います。先ほどの資料2の名簿の順に従って、自己紹介を簡単をお願いしたいと思います。

3 学校経営評議会委員、学校及び教育委員会事務局の自己紹介 (省略)

4 令和6年度 学校経営方針の説明

○会長 ありがとうございます。

新しい陣容で、今年度、しっかりと学校経営評議会をやっていききたいと思いますので、ぜひ皆さんの御協力をよろしくお願いいたします。

それでは、次第に沿いまして、令和6年度学校経営方針の説明に入りたいと思います。

校長、副校長、説明をよろしくお願いいたします。

○校長 それでは、よろしくお願いいたします。座ったままで失礼いたします。

まず学校経営方針ですけれども、一表にまとめておりますが、今年度から教育DXハイスクールへの認定、国から1000万出るのでございますけれども、教育DXへの認定。それから、生成AIパイロット校については、昨年度から認定をいただいております。それから、イーアセスメントに関するもの、ここについては、教育課程の実験校のようなものですけれども、これについても指定をいただいております。簡単に言うと、共通テストに今年度から情報が入るのでございますけれども、それに関わる研究ということになっております。ということで、教育のフロントランナーということを掲げておりますが、教育DXと探究の九段ということで今年度はスタートしております。

グランドデザインも資料として用意させていただいておりますけれども、今までグランドデザインは身につける力ということでもう少したくさんあったのですが、実は探究に合わせて4つの力ということでシンプルにまとめさせていただいております。このグランドデザインに基づいて、今年度の教育活動をスタートしています。

特にもう一枚資料を用意しておりますけれども、九段探究プランです。この九段探究プランなのですが、外部委員には、シリコンバレーの非常に有名な方ですけれども、その方に入っていて、また、経産省の「未来の教室」の室長に来ていただいたり、元国連

のネゴシエーターの先生、それから、東京大学の産業技術研究所の准教授ですとか、探究に非常に秀でた学芸大学の教授の先生ですとか、そういった方々、あと、上智大学の教授の先生にも入っていただいて、昨年度プログラムについて開発してきたということになります。

柱としては、まずグローバル教育、それから、STEAM教育、そして、アントレプレナーシップ教育、この3つを柱として探究に力を入れていくという形のプランとなっています。

特徴なのは、通常であれば、教科学習と探究というのは、総合的な探究の時間というのが始まっておりますけれども、両輪のようになるのですが、主軸を探究学習に置いております。そして、各教科をつなぎ合わせながら、解のないものを探究しながら、解を導いていくという形になっております。

これは1年生から6年生までということで、そちらに書いておりますけれども、「感じる」「踏み出す」「かかわる」が前期課程、そして、「つなげる」「高める」「広げる」ということで後期課程で、1年間、一気通貫したプログラムに仕上げております。

今まで九段自立プランというのがありましたけれども、これはキャリア教育に特化した課題研究だったのですが、それをより発展させたものとして、キャリア教育だけに限らず、STEAMということで科学的な分野に対しても研究していこうと。最終的には研究論文をまとめていくという形でスタートしているものであります。未来を創っていく探究人ということで将来像を掲げております。

このような形でスタートしております、多くの外部の方々も携わっております。今年度は評価・検証委員会というものを立ち上げまして、またよりよいものにしていくということで取り組んでおります。

私からは以上となりますが、あと、先ほども申しましたけれども、男女枠を撤廃したということで、都立高校よりも1年早く先んじております。都立高校の中高一貫校はまだ男女枠50%ずつということでやっておりますけれども、都立のほうもどうなるかということとでいろいろと心配をしているようですが、今後の男女比率によって、施設面でも考えていかなければならないなという部分が出てくるかと思っております。

私からの説明は以上になります。

○会長 ありがとうございます。

特にここまでに何かありましたら。なければ、続いてよろしく申し上げます。

○前期副校長 今の校長の学校経営方針を受けて、各分掌、学年でどのように動いているか、簡潔に説明いたします。

担当している部署がそれぞれ分かれておりますので、そちらについて御説明します。

まず、資料6の1ページ目、知の創造部からお話しさせていただきます。

重点課題の(1)にありますとおり、授業を学習指導の根幹とし、生徒と教職員が一体となった授業を展開して、部署の名称にもなっている「知の創造」へとつながります。

そのために、3の(1)①にもありますとおり、双方向的な対話による学び、生徒が主体的に思考する授業、他者の考えに触れ、相互に深い学びへと発展する授業を展開していきます。

また、主体的、対話的で深い学びができる授業展開をするためにも、3の(3)にありますとおり、教科会や研修等によって組織的に対応しております。

続きまして、2枚目の豊かな心育成部です。

重点課題(1)、(2)にありますように、自らが行動し、生徒の自立を促していけるような指導をしていきます。

そして、(3)の不安のない学校生活に関しましては、先生たちが生徒に寄り添い、日頃から生徒の様子をよく見ることによって、心配がある生徒については、3(3)にありますように、拡大豊かな心育成部会において教員が共有し、即時に個別の対応ができるようにしております。

また、部活動も学習活動と両立できるよう、環境整備を図りながら活発に行われております。

続きまして、学年に移ります。私は前期課程1学年から3学年を御説明いたします。

まず6ページ目になります。

1学年についてです。1年生ということで、今後に向けて丁寧な指導を行っているところであります。2の学年目標であります基礎的な学力の定着ですとか、規範意識の醸成のように、今後6年間で身につけていきたいことの基本となるところを今、丁寧に指導して力を入れております。

また、先日、千代田フィールドワークというものを行いまして、千代田区の史跡、建造物、博物館などに対して疑問を見つけ、自分なりの学びを追究し、共有する体験を通して、物事への観察力や学ぶプロセスを学びました。

7ページ目を御覧ください。

2学年についてです。1年生という後輩もできて、この九段中等の1年の流れもつかんだ学年であります。

2の(1)にもありますように、相互に切磋琢磨する環境で授業する様子というのは、今、授業観察をしているのですけれども、とてもよくこの様子が見えております。

また、2の(3)にもあります、将来に向けたキャリア教育の一環として、明日から職場体験が2日間行われることになっております。

8ページ目を御覧ください。

3学年になります。3学年は、後期課程、4年生に向けて、自立した生徒を育てることに重点を置いております。二者面談、三者面談を通して生徒の様子をよく把握し、指導しております。また、11月9日から16日のオーストラリアの研修旅行に向けて、授業等においても国際感覚を磨くことを実践しております。

以上となります。

○会長 続けてお願いいたします。

○後期副校長 着座にて失礼いたします。

私が担当するところを説明させていただきます。

まず、分掌のところでは3枚目になります。

未来貢献部です。進路に携わっているところになります。基本の方針としては、将来活躍できる、国際社会でも貢献できる人材を育成するということで動いております。

重点課題としましては、先ほど校長からもありました九段探究プランがありますので、その探究プランにも絡めた形でしっかりと6年間を見据えたキャリア教育ができるようにと、今、6年間を見据えた指導計画を作成しております。これに基づいて、各学年、その他の教員とも連携して、しっかりと生徒の進路実現が果たせるよう今年度は動いてまいります。

また、重点課題の(2)、(3)にございますが、模試等もやっておりますので、そのデータをしっかり活用して、要は受けて終わりという形にしないで、分析会を開いて、さらにはその下の3番の具体的方策にも(2)、(3)とあるのですが、分析して終わりではなくて、さらに生徒にも還元できるようなところで、今、進路通信で、教員だけではなく生徒にも、こういったポイントが今回取れていなかったから、そこを押さえればさらに頑張れるのではないかなというような発信をするような取組をしております。

それ以外のところでは、(4)のところでは、重点課題、そして、具体的方策のところですが、昨年度に引き続いて、自習室、あと、自習室のサポーターも活用しながら、さらに充実させていくことを考えております。

4番のその他につきましては、最近、大学の入学選抜では、総合型・学校推薦型の枠もどんどん拡大している傾向がございますので、そういったところでも情報収集をして、そこを目指す生徒のサポートができるように、面接指導の充実、また小論文も専門的なところもどんどん問われておりますので、進路部だけではなかなか対応し切れないところを教科のスペシャリストの教科担当に協力いただいて、全面的にバックアップしていくそういった体制を整えていくという予定になっております。よろしくお願いいたします。

続いて、1枚めくっていただきまして、SMP部です。こちらについては、方針としましては広報活動が中心となります。九段の魅力を外部に発信していったら、どんどん九段を目指してもらって生徒さんを拡大していく。そういったところで動いております。ですので、課題としては、いかに九段の魅力が伝えられるかということですので、授業公開、あと、学校説明会の内容を検討して、効果的な広報活動ができるようにと動いております。

魅力を伝えるためにこういった形でやっているかということ、3番の(1)の①です。今、ホームページの充実もどんどん図っていくということで、学校ブログがあるのですが、教員、生徒が記事をどんどん更新できるようにしている仕組みを取っております。もちろん内容は最終的に私がチェックして上げているのですが、日々たくさんの記事が上がってきて、これを見た小学生等が九段を目指してくれればなということで動いており

ます。

さらには、3番の(2)の③です。昨年度に引き続いて天体観望会、九段コズミック、体験授業も行っていて、質の高い教育活動をやっているのだということを外部に周知しようと努めております。今も毎日のように応募のはがきが届いており、それを抽選して選んでいるというような現状になっています。非常に人気が高い取組になっております。

続いて、1枚めくっていただいて、次がCNVです。create new valueということで、こちらが教育のフロントランナーとして新たな探究プログラムを開発する。あとは、教育DXの指定校にもなっておりますので、そこを充実させるために設置されております。ですので、課題としては、教育DX、データ、デジタルを活用して、学校の授業もそうですが、校務の面においても進んだ取組ができるようにプログラムを開発する。そういった形で動いております。

具体的な方策としましては、先進校視察、全国各地にある先進的な取組をしている学校に視察に行かせていただいて、そこで取り入れたものを早速反映して行って、九段のオリジナルなDXの体制につなげるために、今、担当が力を尽くしているところでございます。

さらには、自分の学校だけではなくて、これまでやってきたところを外部に普及する取組もしていますので、公開授業ですとか、先月の公開講座では、文科省の方が10名ぐらいいらっしゃるような形もありましたし、つい先週であれば英語科ともコラボした公開講座では、愛知県からもぜひというところで、参加いただいたりもしています。

分掌については以上になります。

続いては学年のほうに移らせていただいて、3枚ほどめくっていただいて、後期課程です。

4学年、高校1年生に当たるところになります。こちらにつきましては、2番の重点課題に(1)、(2)、(3)と「生徒一人一人が」と書き始めており、今までは前期課程で少し担任に頼る面もあったのですが、ここからは後期課程で、生徒が自ら自分でしっかり自分のことを見つめて動けるようにというところで取り組んでおります。ですので、3番の具体的な方策のところにも、(1)にございますように、あらゆる行事や委員会活動において、教員が仕切るのではなくて、生徒が主体的に考える。そうできるように伴走するという形で経営方針を立てております。さらには、生徒の実態もよく把握するというところで、全員の面談を実施して、生徒の状況を把握しながらサポートしていく体制を取ってまいります。

続いて、5学年です。1枚めくっていただき、高校2年生に当たる学年になります。こちら後期課程の真ん中ということで、九段の中では一番中心となる学年になりますので、積極的に行事に関わっていくという方針を立てております。現在のところでは、シンガポールの研修の旅行が、10日で来週には行くところですので、その準備に一生懸命取り組んでいるところになります。それ以外においても、行事において中心となるように積極的に動いております。

ほかには、進路のほうも意識しなければいけないですので、早めに進路意識を高めるところで、進路説明会ですとか選択説明会、来年度自分の進路を実現するに当たってどのような選択科目を取るか。そういったところでも全員面談をして、きめ細かい指導をしていく。そういった形で進めてまいります。

では、最後、6学年になります。ここは九段での学びの集大成となる学年ですので、いかに進路の実現を果たせるかというところになってまいります。ですので、重点課題としても、学習指導は大学受験に向けて取り組めるようにサポートをしております。体育祭が終わって、生徒の様子を見ても大分勉強のほうに切り替わってきている様子も見えます。現在授業観察もしているのですけれども、生徒が黙々と問題演習に取り組んでいる様子も見られます。そういった頑張っている生徒を支えるために、一人一人が希望進路を実現できるために、未来貢献部と連携しながら進路指導を進めてまいります。

現在の様子はというと、休み時間と放課後の時間を利用して、個別の面談を今担任が進めております。目指す進路とのミスマッチを起こさないように、しっかりと生徒のニーズに応えられる進路指導を展開しております。

以上になります。

○会長 ありがとうございます。

本日配られて、今の御説明を聞くだけで十分理解ができたかどうか分からないのですが、多少時間を取って、全体にわたって御質問の時間を取りたいと思います。皆様のほうから何か御質問がありましたら、よろしくお願いいたします。

委員、どうぞ。

○委員 3枚目の未来貢献部の経営方針のところでお話を伺っていて、小論文指導を主に進めていくということですが、小論文にもいろいろな内容等があり、かつ字数等があるのですけれども、そこはどのように工夫しながら、年間を通して進めていくのかというのを教えていただければと思います。

○後期副校長 年間を通してですが、今はメインでは高校3年生のところで小論文が実際に必要になってくる場所もあるので、そこをアナウンスして、現在の体制ですと、まずは生徒がどういったところを受けるのかによって課題も変わってくると思うので、そこをまず進路部のほうで取りまとめて、内容を精査して、国語的な要素であれば国語絡みの添削を受けつつ、しっかり字数の中で要点を押さえて書けるか。あとは、内容が理系のものであると、かなり専門的な内容も問われてきますので、そこはやはり進路部の中ではなかなか専門家もいないので、そこについては理科の教員にお願いする形で中身を見ていただく。それでまた全体の構成ですね。そこをまた戻して全体的に見て、しっかり字数の中に収まっているか。そういった体制で私どもは今やっております。

○委員 さらに小論文の指導については、結局、一本の小論文をお一人の先生がやるのか、複数の先生と一人の子供たちなののでしょうか、先生方にとっては時間をたくさん取られますね。

○後期副校長 たくさん時間はそうですね。

○委員 共通理解、あるいは国語での指導、子供はそういうので非常に納得しながら進めていくと思うのですけれども、もちろん書けば書くほど子供たちは実力がついていくのですが、そういうものの手応えはどこかで感じるというか、試すところはどこかにありますか。例えばこちらでDX等のことで進めていく中で、いろいろなところで研究発表をしていますよね。そういう内容等についてのアピールというのはどこかでしていくのですか。

○校長 実際に科学の祭典とかそういった中で、特に前期課程は結構表彰を受けているので、筆記もさりながら、結局、フォトセッションとかで表に話をしなければならないので、そういった意味での発表の場があったりということになります。あと、小論文というと、国内だけのということではなく、海外に進学する生徒についてはエッセイを出していかなければならないので、それは英語科が中心となって、あるいはALTがということで、今、都立高校はJETがついているのですけれども、本校には残念ながらJETがいない。来年度認めてほしいということで、今、教育委員会にもお願いしたり、こちらでも予算立てのところがあるので、お願いできればなと思っているのですけれども、そういったことも見ていく。

あとは、先ほど探究に力を入れていくと言ったのですけれども、探究は最終的には論文を作っていきますので、ただ、総合的な最大発揮できる場面はというと、やはり総合型の選抜かなと思います。総合型選抜、先ほど九段で言った探究などについてどんなことをやってきたのかということを論文にまとめ、なおかつ面接では発表しながら、合格証を出していくということなのです。

今年度というか、この3月に卒業した生徒は総合型で10名合格しているのです。東工大に2名、それから、筑波の医学部なののですけれども、ここに1名。今、東大総長と一緒に仕事しているのですけれども、これから東大でもこの総合型についてはどんどん広がっていくと。この総合型で受かった学生というのは、主体的に自分でいろいろなことを、先ほど言った探究もそうですけれども、主体的に自分でどんどん突き詰めていかなければならないので、そういった力がついているということで、大学生になっても主体的にどんどんやっていく優秀な生徒が多いということで、この枠を広げていくというのが、今、国立の大学でも広がってきているということがありますので、そういったところに向けての指導をしながら、ますますこの辺はもっと全教員体制でやっていかないと多分無理なのだろうなとは思いますが、先ほどの探究も最後は論文を仕上げていきますけれども、全員で見ていくというような体制づくりをやっていると思います。

○委員 ありがとうございます。

○会長 よろしいでしょうか。

それでは、ほかに御質問は。

どうぞ。

○副会長 私がこれまで見落としていたかもしれませんが、最初の学校経営方針の一枚紙

のところに数値目標というのがあって、これまではなかったのではないかなと。

○校長 私が来てからはつけています。これは達成がどれぐらいかとやっていたのです。

○副会長 そうですか。そうであればよろしいかと思います。先ほど来申し上げたように見落として、これを見ると比較的目標が高いので、実は総合型選抜に限って10名と書いてあって、国公立に入っているのが10名という意味ではないと思いますので、やはり夢を持って頑張ってやらないといけない数値目標かなと思いますが、ぜひ頑張ってくださいと思います。

次のグランドデザインのアドミッション・ポリシーとカリキュラム・ポリシーとグラデュエーション・ポリシーというのは、文科省から大学など高等教育のところで作るようになって、会社でいうと中期経営計画みたいに必ずないと株主から怒られるようなところですが、それがしっかりできていて、左側の何とか能力というのを見ると、多元的にいろいろ力をつけようという意欲が推測というか、ここで見ることができるのではないかなと思います。

それから、九段探究プランは新しい試みだということで、大体めどは5年ぐらいなのか。5年か6年で一つの節目というか、お考えになっていらっしゃるのですか。1回目のところは。

○校長 今年度から一応スタートなのですけれども、1年生だけということではなくて、全ての学年で要素を取り入れているのです。ですので、本年度から評価・検証ということをやっていますけれども、IRをどうするかということも視野に入れながら、今年度、それで評価・検証委員会もすぐにスタートさせているというところはあります。3年たつと一つのめどが見えてくるかなと思います。

○副会長 最後ですが、令和6年度未来貢献部経営方針のところなのですけれども、難関国公立大への合格増加とありますが、子どもの向き不向きもありますし、幅広く進路を目指させていただけるとよろしいかと思います。

あとは、ぱっといただいたので、会長がおっしゃったように、すぐに全部一字一句は分かりませんが、よくできた経営方針だと思いますので、これを実行していただければ、大変よろしいかと思いました。

○校長 いえ、私自身があまり東大に何人入れるとか、そういうのは求める必要はないと言っているのですが、実際に保護者の方がやはりそういったものを、一つの指標として日本にあるのは重々分かっているのですけれども、それを前面に出すということではない。

国立を何で出すかという、基本的には全ての教科、早いうちから理数とか何とかということになるので、文系でも、今、数学を必ず必須にしているとか、そういった入試も関わってきていますけれども、先ほど言った外部委員の先生方も、国際社会で活躍していくには全部やっていなくてはいけないよとか、そういったこともあって掲げている。ただ、難関国立大学に行く子たちだけを対象にしているのではない。そこは難しいなと思いますけれども、そうやって掲げて、みんな全ての教科を大事に行くよと言って頑張っている。

うちの学校でいうと、フル型で受ける子は今50%ぐらいです。その子たちはとにかくみんなで頑張って最後まで志望していこうよという形でやっています。ただ、6年生になると教科選択が出てきますので、おのずと、当然早慶を目指している子たちもいるし、それはそれで学校としては応援しているということになっていくので、選択によってはクラスが理系傾向、文系傾向というのははっきりしてはいるのですけれども、そういったことも受けて、未来貢献などは校長の意向を受けてこういうふうに行っているというところはあると思います。

○校長 中高一貫校だと学力検査はできないので、適性検査をしていくので、適性検査は結局は与えられた問題に対して自分がどう考え、どう表現するかというところで、そういったことで、1年生から入ってきていますから、ずっといろいろな授業でもそういったことが求められる。英語でも英語での発言ばかりいっぱい求められていますから、中高一貫校は特にそういうのが鍛えられる土壌にはあるのでしょうか。

○副会長 非常にそういうのはよく出てきますね。

○校長 赤字の部分は去年よりも新しくしたところを示したりしています。目標値も先生たちが考えて、実質こういった目標値がいいのではないかと、そういったことを話し合った中で書かせていただいております。先生たちもいろいろと頑張っております。

○会長 ありがとうございます。

今、副会長からはいろいろ具体的なお話があって、分かりやすかったと思うのですが、教育委員会のほうはこれに関しては何かありますでしょうか。

○指導課長 今の受験のところはそれぞれの校長先生のお考えとかであって、今お話があった中でも、やはり経営方針自体がしっかり行動的であって、まさに具体的で、子供たちに何を身につけさせようかというのがしっかりはっきりしているというところがあって、それぞれの分掌においてもそれを反映させたしっかりした取組というのが行動的にできているというところがあるので、すごく頼もしいなと私のほうから見ても思うところです。この九段中等は、今回の新しい取組の探究もそうですし、生成AIもそうですし、そういったところでいろいろ発信できる力というのがあるなと思っていますので、そういった意味でこちらもいろいろ支援していきたいなと思っていますところです。

○会長 よろしいでしょうか。

どうぞ。

○委員 御説明ありがとうございます。

私も副会長のお話とちょっとつながるところがあるのですけれども、特にグローバルというところを非常に強くうたっていらっしゃるのを非常に頼もしいというか、私どもの時代に比べるとなかったことなので、とても羨ましく感じるところです。

昨今、ノーベル賞を取る方も海外で活躍している方が多くて、ところが、日本からの海外での活躍している、海外に留学する人というのはすごく減っていて、中国とかに押されているのですよね。それはやはり日本でやっていけばいいという気持ちの人が増えてしま

ったのではないかととも言われていますけれども、こういう高校時代から世界に目を向けるという教育を受けていると、やはりその後、大学、大学院に行ったときにも海外に目を向ける、そういうきっかけにもすごくなるのだろうと思います。

その中で大使館を訪問したりとか海外研修、こういったものがいっぱい入っているというのは、新しい九段探究プランの中でも一つの柱になっていますので、非常に興味深いなと思っております。

せんだって、こういう海外の、例えば英語教育がしっかりしているということで、ここに入りたいという若い学生、小学生ですかね。お子さんの話を聞いたことがあります。

一方、海外で活躍されている方が、やはり海外の国際機関とかに行くと、東大と言っても相手にされないというような部分もあると。それは、やはり東大に行って、さらにその上の海外の大学を目指していくみたいなことをしているようです。ですから、こういった世界に目を向ける視点を植えていただくというのは非常に興味深い、頼もしいと思いましたので、ぜひ進めていただければなと思っています。

以上です。

○校長 前にも御説明させていただいたと思うのですが、イギリスのバンガー大学をはじめ、イギリス国立4大学とアイルランドの国立大学、アメリカは私立になりますが、その6校と指定校協定を結んでいますので、そちらに3名の指定枠というのを持っていますので、今回もバンガー大学に5名ぐらいですかね。短期留学を夏に行います。私も今回視察で様子を見にいけますけれども、あと、UCLAには14名行きます。15名希望していたのですけれども、学力もちゃんとないといけないということもありますので、14名が2週間ほどUCLAの寮に泊まって、そこで研修を受けるという形になっています。

あと、シリコンバレー研修も来年度から何とか取り入れることができるようにということで、今年視察にシリコンバレーのほうへ行ってみますけれども、海外に目を向ける子たちもいて、留学する子が実は多くて、今年度も5人ぐらい申請があって認めてということで、当然帰国して帰ってくる子たちもいるのですけれども、逆にそういった子たちからもどんどんまた広げてもらいたいなと。

あと、グローバル関係でいくと、この間、P.A.の会長には御相談させていただいたのですが、実は九段にしながらアメリカの高校の卒業資格をもらえるようにということで、どれぐらいやるのかというと、九段の授業を行いつつ、放課後に1週間、1時間ぐらいずつですかね。オンデマンドで3時間か4時間ぐらい。それから、オンライン授業でも3時間ぐらい行うのですけれども、それを2年することによって5単位を取得するのです。あと、全部で20単位必要なのですが、残りの15単位は九段の授業を読み替えていいということになっていまして、それをしっかりと受講して成績がよいと、プロビデンス・カントリー・デイスクールといういわゆる優秀な高校、ハーバードとかMITとかが出ている高校なのですけれども、その卒業資格をもらえるということで話を進めて、そこと締結することに一応決定しましたので、九段にしながら頑張れば。これは学校として契約はする

のですけれども、あくまでも個人が最終的に契約していくということなのですが、ただ、かかる費用が300万ということで、300万かかるのですけれども、ただ、学校が提携すると250万になる。でも、250万でいわゆるアメリカの高校の卒業資格をもらえるということになると、今度は帰国子女枠の大学を受験することが実はできる。慶應とか上智とかそういうところが持っているのですけれども、そこに資格を取った生徒さんが今のところ合格率100%ということでもなっていますけれども、当然、オンデマンド、オンラインの授業は全部英語でやりますので、それなりの力をつけていくということで進めていきたいなと思っております。

以上です。

○会長 どうぞ。

○委員 それはアメリカの大学にも進学することができる。

○校長 そこは実は15大学ぐらい推薦校を持っているようなのですけれども、バンガー大学との契約があるので、あまりそちらはできない。あくまでも高校の卒業資格を取ることでの契約をしていこうと思っております。

○会長 どうぞ。

○副会長 自分で調べればいいことなののですけれども、バンガーはウェールズにあるところなのですか。丘の上にあるところ。

○校長 そうです。

○副会長 ここは行ったことがあるのですけれども、早稲田の国際教養学部が英語で授業をやるということでこの大学に留学をさせた大学がバンガー大学ときいています。スノーデン先生という早稲田の副学長をやった方が、それ以降は日本などの高校生を直接大学に入学させると言っていました。ですから、ものすごく適している。ここからこのバンガー大学に進学することもあるので、たくさんの日本の予備校（プレップスクール）が市中にあって、わざわざ大学進学前1年間留学させて英語の勉強をさせている日本人の子供たちもいっぱいいるのですが、そんなことまでもちろんさせる必要はないのですけれども、非常に適している。よくお見つけに。

○校長 実は富士高校のときも公立で初めてそこと結んだのですけれども、その流れで九段に来て九段でも言ったら、九段だったらいいですよということでもらって、バンガー大学は海洋教育に非常に力のあるところで、うちの中でも理数教育にしっかり力を入れて、STEAM教育に力を入れているということで、そういったプログラムを独自に組んでくれたりと。中学校3年生も行けるのです。3年生でいけるということで、5年生のときにここに行きたいということであれば、5年生で受験することができるのです。1年間オンラインで放課後などはファウンデーションコース、授業を受けさせてもらって、卒業と同時に学部生としては入れるということで、3年間で学士の資格を取れますから、国内で現役で行くよりも半年早く大学に進むことができるということになっていますので、とてもいいです。

受験をうちの学校でできる、いいですよという許可をもらったので、九段で受けられるのです。これはメリットです。

○副会長 売りになりますよね。

○会長 ありがとうございます。

ほかにはありますでしょうか。

○委員 こちらのグラウンドデザインについてなのですけれども、本当にいろいろな方がおっしゃっているようにすばらしい内容だなと思っているのですが、1点だけ気になったのが、いじめ報告ゼロです。人間は弱いので、この数値目標だともみ消しが発生するのではないかなと素人考えで思いました。なので、内容は別にいいのですけれども、この数値目標はちょっと気になるなと思ったので、一応お伝えしようと思いました。未解決ゼロとかでもいいのかなとか思ったり、何となくですけれども、いじめは防止するのが一番重要で、起こさないことが重要なので、この報告がゼロというのはもちろん大切なことだと思うのですが、起きたときにこの目標が反対方向に働いたら嫌だなと親として思ったので、お伝えだけしておきます。

以上です。

○校長 ありがとうございます。

いじめ報告については、逆に1とか2とかというのも書けない。去年5だったから3にしますということは書けないので、あくまでもゼロはゼロを目指してほしいと。ただし、報告については、あったらすぐに教育委員会、教育委員会は重々分かっているのですけれども、去年は5件ぐらいありました。すぐに保護者にもちゃんと報告をし、そして、これは話をしたから解決するものではなくて、長く見ていかなくتهはいけないというところがありますので、そこは教員たちも。

いじめについてはちゃんと研修を開いておりまして、いじめ防止法というところでのいじめの認識が教員がまだまだ足りない部分があって、健全育成サポート会議というのを千代田区でも設けてはいるのですけれども、そこに先生、日本女子大学のいじめ防止というスクールコンプライアンスに非常に長けた日本の第一人者なのですけれども、その方に来ていただいて、通常であれば一高校に来てくれるような人ではないのですけれども、直接教員に指導していただく。この人は、全国から校長が集まる中央研修というのがあるので、そこでの講師をする人ですので、いろいろなところでいじめの第三者委員会とかを開いたりするのですけれども、その座長をされる方ですので、そこから直接教育を、いじめとは何かということ。いじめ防止法の学校の役割とやらなければならないことは何か。この先生に来ていただいて、逐一全部報告を上げているということですので、今、いじめというのは、いわゆる感じた側が傷ついたとか、そういうところでもいじめとなっていくしますので、そうなっていかない手前のところでどれだけ教員が関わっていくか。そこが大事なかなと思っています。

そういった意味で、ゼロ以外を書くのはこれはなかなかつらいなというところで、ゼロ

を掲げている。ただし、だからといって、ゼロに近づけるために何かしようということは、うちの教員はしてないということです。

○委員 安心しました。ありがとうございます。

○会長 ありがとうございます。

先ほど委員はちょっと遅れて来ていただいたので、その間に自己紹介をさせていただいているのです。大変申し訳ないのですが、今、お名前も分かっていらっしゃると思いますが、一言何かありましたら。

○委員 校長先生には御挨拶を既にさせていただいております。経営企画室長、ちゃんと御挨拶ができていなくてすみませんでした。教育委員の方々も引き続きよろしくお願いいたします。

保護者目線で考えると、本当に教育委員、それから、学校関係者を含め、とてもとても多大な御尽力をいただいていると重々承知しておりますので、何か少しでも働き方改革のサポートだったり、子供の教育環境向上にお力添えできるように我々も頑張っていきたいと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

以上です。

○会長 ありがとうございました。

それでは、ただいま御説明いただいて質疑応答をさせていただいた学校経営方針について、ほかに何か御意見、御質問等がありますでしょうか。員、どうぞ。

○委員 3点ばかりよろしいですか。

まず、アドミッション・ポリシーといいますか、入学者のところがこういう人に入っていただきたいというのがあるのですけれども、逆にいろいろな私立高校もあり、中高一貫校はほかにもありということで、そこのほかの競合するところからすると、どこを差別化要素としているのかというのが、特にもともと九段中等ができたきっかけも、当時の千代田区の生徒たちがほかの私立に流れてしまうような問題意識でできた学校だというふうな理解をしております。現状どうなのか。他校との比較の中で九段中等を選ぶというところを、どう選考される側というか、選考する、こちらはどちらかというところから来てほしいという書き方だと思うのですけれども、そういったほかのいろいろな学校がある中で、九段中等を選んでくれというところのアピールポイントを御教示いただけるとありがたいです。これは全部がそうだというような気もするのですけれども、特に他校比較というところで今どんな考えで運営されていらっしゃるのか、聞かせていただけるとありがたいです。

○校長 私がいつも学校説明会とか、この間も学校説明会に行ってきたのですけれども、ちょうどこの間は200～300人でしたかね。この日曜日、学校説明会には1,000人を超える人が参加しています。そういった中で、私が小学生に話をするのは、とにかくいろいろなものに興味を持って、粘り強く最後まで解を求めていく。そういった挑戦する。君たちが主人公なのだからということで話をしています。

ただ、ここの中高一貫校でできた当時もそうなのですから、都立の中高一貫校というのは、中高一貫校の検討委員会である程度方向性を決められてばんと来ていますので、ある程度そこは共通した意識なのかなと思いますよ。ただ、この間、学校説明会がenaだったのですけれども、enaからその評価ということで返しがあったのですが、そこで保護者の方の印象としては、やはり先生の数がまず多いということですか、施設が充実しているとかということです。あと、私の話から、どういった子供を育てたいかというのが明確に分かってよかった。自分が考えているような育成方針だったので、それがよかったということでしたので、そういったところが評価されているのかなと。

実は都立の中高一貫校は、今、どんどん倍率が下がってきているのです。ただ、なぜ下がってきているのかというと、当時、私は中高一貫の改革の担当課長だったので、中学校の倍率が5～6倍。でも、都立の併設になったときには、下手をすると1倍を切る。全員合格になる。中高一貫校に途中から入るつらさと人数の少なさでそういったこともあるので、こちらの倍率を下げようということで、中学を増やして、高校から入れるのはやめようという改革したのですけれども、それで倍率が落ち着いてきた。5倍が3倍ぐらいになってきた。それがだんだん2倍ぐらいになってきている。それはどこに流れているのかというと、私立の無償化と、あとは通信ですね。そちらに相当流れていっています。今、テレビコマーシャルを相当やっていますけれども、そちらにがばっと流れている。

そういった中で倍率が上がったのは九段です。そんなにはないのです。特にB区分。A区分は2倍。そこは保っていてすごいなというところと、5倍近くあるB区分。ここはすごく九段の誇れるところ、魅力を感じてくる方が多いのだろうなというところがあると思います。都立は今、大体2倍ぐらいになってきてしまっているのです、相当下がってはきています。

○会長 ありがとうございます。

もう一点あるのですか。

○委員 2点目は、3月も質問させていただいた中で、今回、DX推進校に昨年度なったということで、来年度はスーパーサイエンスハイスクールまで目指すという話があったかと思うのですけれども、今回それが名前が消えているというところで、その辺りの経緯といますか、恐らくDXをやるだけでもかなりマンパワーもかかるころだと思うので、いろいろと経緯があったかと思うのですけれども、その背景をお知らせいただけるとありがたいです。

○校長 SSHですね。スーパーサイエンスハイスクールを目指すということでスタートしたのですけれども、教育DXハイスクールがその途中で出来上がってきたのです。実はSSH、スーパーサイエンスハイスクールと教育DXを両方目指そうということで、SSHにエントリーしていたのです。そうしたら、文部科学省からどちらかしか駄目ということになってしまったのです。どちらか選りなさいということだったので、教育DXハイスクールについては、うちは中学からの支援のおかげで1年生から6年生までタブレットを使え

まして、月に20GBまで千代田区さんの負担で通信費に分からないということがあって、DXはかなり進んでいたのです。そこに生成AIのパイロット校での指定も東京都では一個もない中でうちだけが指定を受けたということで、こちらのDXを捨ててSSHに行くよりは、エントリーはしたものの、それをキャンセルしてDXに行ったほうがいだろうと教育委員会さんとも話をして、そちらにして1000万をもらった。本当は両方で2000万もらおうと思っていたのですけれどもということです。その代わり、STEAMということでこちらのコンセプトはしっかりと残しているということになります。

○会長 ありがとうございます。

○委員 あともう一点すみません。

今回資料が何もないところではあるのですが、至大荘について2月、3月ぐらいから在り方委員会というものが設置されて、今年の7月にいよいよ行われるということなのですが、その辺りのいきさつとか、どのような経緯でどうなったのかというところについても、できればこの評議会の中で御説明をいただければと思っています。

○校長 至大荘については非常に伝統のあるいい行事ですので、それを継続していかなければならない。その中で、今、安全について専門家の意見を取り入れていかなければならないということもあって、菊友会とP.A.の代表の方、それから、学校のコンプライアンス、法的な部分の教授の方と日本水難救済会という海上保安庁OBの方、その方は海上保安庁、校長先生もやって、遠泳に非常に長けた方。あと、高校の学校経営の方で構成して、本来の学校行事の在り方で、法にのっとって、いろいろな裁判事例とかそういったところも見ながら、どうしていくのがいいのかと。

実は、学校が契約する相手方というのは、講師でお願いするときもそうなのですが、経歴とか、どういう方とか、どういう専門性を持っているのかとかというところをきちんと知っていかなければならない。実は今までこのOBの方とかほかの学校に所属している方も応援に来ていただいたのですが、そういったことをやってはいけない。法的に服務上無理なのです。服務事項になってしまう。そういったことも考え併せて、安全資格を持った方に何とかお願いするにはどうしたらいいか。学校などはスキー教室とかいろいろやっているのですが、それもスキー教室の専門的なライセンスを持った方にお願いする。契約するとこちら側も責任を負いますので、そういう契約しかできないのです。そういった中でどういうふうに進めていくのがいいのかというのを検討委員会で御意見をもらいながら進めてきたというところが一点です。

それから、東日本大震災があって以降、遠泳というのは見直しをされてきて、要するに、起こった場合に避難できない。遠泳というのはそろそろ見直しませんかとライフセービング協会から言われたのです。専門家の方からそう言われると見直さざるを得ない。それでも至大荘行事、遠泳というのは大事なことになるので、何とかできる方策はないかということで、泳ぐ経路とかそういうのもライフセービング協会も得ながら行うということで、日本水難救済会とライフセービング協会と契約を立て、その中で生徒に資格を取らせて、最終

的にはライフセーバーの資格を取って、それでゆくゆくはOBが現役の生徒の面倒を見られるような形に。今でもライフセービングの資格を取られている方もいるのではないかと。ということで、そこはお願いして、ぜひその方々には、ライフセービング協会が登録をしていて、関わってもらえないかというような形で進めてきているということになります。

要するに、御存じの方もいるかと思うのですけれども、前に学校行事として、高体連なのですけれども、山で雪崩に遭って事故になって、実は実刑判決が出てしまったのです。今までの学校の行事の中で実刑判決が出るというのはほぼなかった。私も教育委員会にいたときに、業務上過失傷害というところで携わったところがあったのですが、大体不起訴になったりで終了していたのですけれども、実刑判決。これは教員にそういったことは負わせられないですし、委託した先の、実際には助手の方ですね。助手の方ですとか、あるいはうちの教員のOBの方にそういったことを負わせることはできないということで、法的に非常に詳しい方からの御意見もいただきながら、どうしていくのが一番いいかということで進めてきたということになります。

あとは、医師もずっと今までついていってもらっていたのですけれども、働き方改革で協力が難しいということが急遽起こって、それで急ぎいろいろなところで何とかならないかということで、うちの教員が。その中で菊友会さんのほうで何とかできませんでしょうかということで、どなたか紹介できませんかというのをやっている中で、そういった派遣を契約しているところ、派遣をしている業者さんの契約の中で申出がありましたということで、何とかできるような方向に行けてよかったなと思っているところなのですけれども、来年度以降は実はそういった携わる中で、順天堂大学さんが中心となっている水泳のドクターとかそういったところの方が非常に興味を持っていただいて、来年度以降はぜひ協力したいというような方向性もいただいている。今度、そちらにも御挨拶に行こうと思えますけれども、そういった中で、学校行事として、安全にできるようにするには、服務上の問題とかそういうところもクリアにしていくためにどうしたらいいかと。法に適した方法でできる方法をとということで検討している。それで今年何とかできるということで、いろいろな方々の協力を得ながら進めているということになります。

○委員 今のお話で確認したいのですけれども、ライフガードの協会さんとは契約が締結されている。

○校長 そうです。あと、日本水難救済会、この間も一日中プールの水泳指導を見にきてくれて、遠泳するには隊列で、御存じですよね。隊列を組んで、隊列が乱れて死亡事故も起こっているのです。その指導をずっとしていただいてということで。うちのプールは中央が2メートル20センチあるという特殊なプールなのですけれども、ここで、中学校時代に基礎的な資格はうちの学校で取れるということで、それで全面的にバックアップしてくれるということになりますので、全員がそういった資格を持ちながら至大荘行事に望めば、自ら安全に行けるのではないかと。ライフセービングの基本的な資格も、泳力が関係してくるということなのですから、それは4年生で取れるということなので、そうい

った方向で話を進めているということで、より安全に至大荘行事を進めていけるようにということで進めたということになります。

○委員 私も卒業生として関わってきたのですけれども、もともとの発端自体が、一番初めも、当初は教員と昔の東京師範学校の関係者で運営されていたところが、やはり長きにわたって運営すると、どうしても指導員が足りないということで、その当時の水泳部のOBたちが駆り出されて、訓練をしてやりにいったといういきさつがございました。

先生も御存じのとおり、その伝統を守るために訓練もして、隊列指導については、守谷の浜の海上調査をやりながらやってきました。指導に当たっているメンバーからすれば、ライフガードの知識を得るとか、そういうスキルを持って、引き続き運営する機会があれば、今の若手の卒業生も取り組む意欲があります。遊泳助手に卒業生を使わないというのではなくて、そういうスキルアップをする中で、来年度以降はそういう道を改めて、契約の問題があるというのであれば、水難救済会ないしは日本ライフガード協会と卒業生がタッグを組むとか、そういう選択肢も引き続き御検討いただいたほうが、末永くこの行事が続けられる方策が見つけられるのではないかなと思います。

私どもがやはり心配しているのが、あまり水難救済会さんが遠泳指導をしているわけでもないと聞いていますし、ライフガード協会もどちらかというと溺者の救済という側面が強い体系で、隊列指導というところがどこまで取られているのか私たちに見えていないところでもあります。逆にその辺りが遊泳助手たちが一番力を注いだところでもあるので、学校の新しいそういう水難救済会、ライフガード協会との連携の中で、卒業生が入ることによってこの行事が安全にかつ永続的に行われるようなやり方を引き続き御検討いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○校長 水難救済会の入ってきている部長さんなのですけれども、校長先生なのです。海上保安庁の校長先生で隊列指導をずっとやられていた方で、先ほども言ったように、この間もプールの中に入りながら全部指導してくれたのです。今度、勝浦に行ったときにもずっと来てくれると。報償費は要りませんと。それはなぜかという、そういう水難関係の指定を受けて、その日は全部やってもらえるということで見にきてくれる。

それから、ライフセービング協会の方が来てくれるのですけれども、その人はずっと勝浦の方で、当然、至大荘行事もずっと見ていた人で、その方が潮の流れを全部把握していきますということで、その方がついてくれるということでやっています。

実は、委員にも菊友会と法人九段の人が入っているので、正直に言って、その会議でも言ったのですけれども、この行事を法人九段の行事としてやりませんか。それで、うちの生徒を紹介して、希望者は行くというと、それはできません。なかなか難しい。助手の方の、当然、部活動もそうなのですけれども、部活動もOBだからと今は簡単に来られなくなっているのです。ちゃんと面接をして登録した人しか駄目なのです。体罰がないようにとか、安全指導があるようにとか。ただ単にその部活ができるということでは駄目なので、ちゃんとそういった安全資格とか、そういう研修を受けたりという、法人九段がそう

いう組織になって、逆に先ほど来のセービング協会ではないですが、そういった契約はできませんかということまで持ちかけたのですけれども、それも厳しいということで、ただ、ライフセーバーの資格を持っている方がいらっしゃるというような話も漏れ聞こえたので、ぜひそういった方に協力していただいて、ライフセービング協会と登録していただいて、ぜひ来ていただきたいというようなことは話していました。

ですので、要するに、学校が契約する相手というのは、安全でちゃんと資格があるような人ではないと契約ができない。絶対に事故はあってはいけないのですけれども、もし事故があった場合に、何で学校はそういう契約をしていたのだというところも目に見えているので、そういう流れがあります。とにかく生徒の安全第一、そこだけです。

ですので、先ほど言われたような道というか、とにかくいずれその資格を取れる生徒が増えてくれば、当然OBの方で全部固めてもらえるのかなとは思ってはいます。そういった形で進んでいますので、御意見は重々分かっているのですが、今までの流れとか、本当に伝統的な至大荘のすばらしさと、助手の方々がどれだけ頑張ってきていただいているかというのも重々分かっている中でのことです。御理解いただければ。

○委員 ライフセービング協会の話が出てきたところで、約10年前に神田一橋中学校、それから、麴町中学の行事の中止になってきたという記事を教育委員会の資料で拝見したのですけれども、そのときの原因はライフセービング協会から人が出せないというのが理由だったと記憶しております。私はその辺りが一番気になっていて、卒業生はどちらかというとバトンがどんどんつながっていく体系が整っていますので、そういう期待感というのは強いのですけれども、そういうことが九段の中でも起こらないかどうかというのを非常に気にしております。もちろん先ほど言ったとおり、ライフセービング協会の資格ですとか、我々はどちらかというと日赤の水上安全法の指導を受けている。私も資格を持っているのですけれども、そういう人たちでやっていたところなので、全く無資格でやっているわけではなかったものですから、学校としては日本ライフセービング協会の資格が必要だということであれば、それにかじを切っていく必要があるかと思うのですけれども、その辺り、もう少し永続的に見た場合にどういうサポート体制が一番安全で永続的なのかというところについて引き続き、今回の結果はもうすぐ7月で出ると思いますので、それを踏まえて、引き続きこちらの場でも資料等で御報告いただければなと希望いたします。よろしく願いいたします。

○会長 今の件に関して、ほかに御意見はありますでしょうか。

どうぞ。

○副会長 時間も時間なので、1分で。

今の話の話は全然分らないのですが、至大荘行事は今年の夏も継続なのですか。

○校長 継続です。ずっと続けるためにどういうふうにしていくのか。

○副会長 どうぞうまく落としどころを見つけて、よろしくお願いします。全然分らないので。

○校長 今年は実施します。だから、永続的にずっと、今、学校は結構コンプライアンスがどんどん変わっているのです。実はこの行事ができなくなっている都立高校が多いのです。そういった中でどうしたらいいかというのを探し出してというところですよ。

○会長 よろしいでしょうか。

私のほうで一言だけ、そのところなのですが、従来は4泊5日で行われていたものが、今年度、昨年度もそうでしたけれども、2泊3日ということで短縮されている。それは物理的な施設の問題とかそういうことがあろうかと思えますし、働き方改革の問題もあろうかと思えます。それが菊友会として見たときに、高田さんの御意見の中でも、従来90年余り続けてきた至大荘行事というものと今年度やろうというものに多少差がある。その一つが、先ほどの助手の採用とかそういうお話だったと思います。日程とか助手の採用とかそういう部分。今後、可能な限りにコミュニケーションを図って、その辺の最もよい方法、あるべき姿というものを協力して模索していくということをぜひお願いしたいなと思っております。

私のほうからはそれだけです。よろしくお願いいたします。

○校長 日程については、去年はコロナの問題もあったのですが、あとは、要は労働環境問題、労働問題なので、部屋数でそこは無理だと言われてしまったので、分割せざるを得ないというところがあります。法人九段のほうでそれは無理がある。では分割するしかないですねということで、最初は5日で考えてはいたのですが、そういったところあるということで、いろいろ考えの中でまた違ってくると思うのですが、

○会長 最後となりますが、教育委員会のほうは何かありますでしょうか。

よろしいですか。

5 その他

6 閉会

○会長 それでは、本日、予定の内容は滞りなくさせていただいております。中でも、学校経営方針、それから、グランドデザイン等、そのほか詳細の内容もございますので、またぜひ目を通していただいて、第2回の学校経営評議会もございますので、その間に十分理解を深めて、またいろいろお話をさせていただければと思っています。

それでは、本日の「学校経営協議会」をこれで終了させていただきます。御協力ありがとうございました。